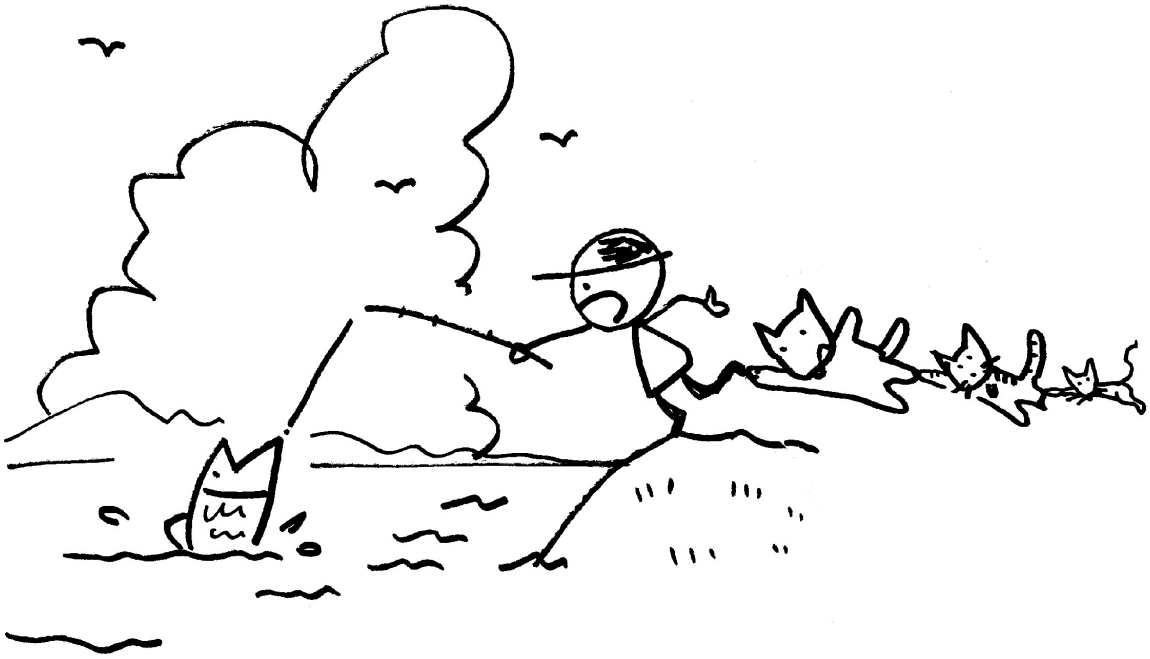
上田地域もの・こと交換制度
蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶ・ま～ゆ会報 No.29 2006 年5月 10 日 発行



わたしたちの願い

蚕都くらぶ・ま～ゆという上田地域通貨モノコト交換制度は、地域で暮らすひとびとがお互いに助け合って楽しく暮らすための制度です。

私たちは、この地域の豊かな自然やひとびとの知恵・技術・経験・人柄を地域の宝と考えます。その宝を活用することで、より豊かな地域と人間関係を目指しています。

蚕都くらぶ・ま～ゆは、地域通貨を使って人と地域をつなぐシステムです。

- ❖ 人と人との新しい関係が生まれます。
- ❖ 自分の能力を再発見できます。
- ❖ 人が活き活きすることで、地域が元気になります。

須川だより

須川プロジェクト

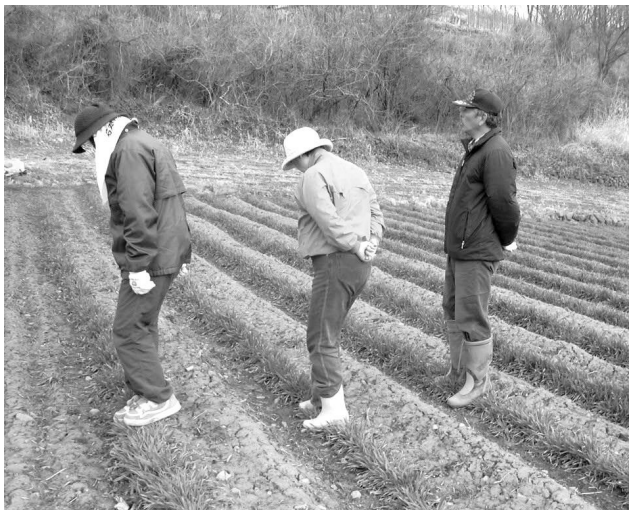
疲労坊　　＆　　ごんべえ

今年の桜の開花日そのものは中旬頃で、過去と比べてそんなにびっくりするほど遅くはなかったのですが、その後の寒さで持つこと持つこと。25日頃まで咲いていました。長く楽しめるのはありがたい事なのですが、人間は贅沢なものです、いさぎよくさっと散る桜が妙に懐かしくなりました。

須川にも５年目の春がやって来ました。昨年播いた麦（イガチク）が緑の帯となって棚田に勢いを感じさせてくれています。（鹿の被害が心配ですが）地元の人達も毎日この景色を眺めながら、黄金色に実るのを楽しみにしているそうです。私達の汗で棚田と里山の景観が少しでも維持され、地元の方々とこのような形で交流できることは、何よりの喜びです。

今日(4月30日)は昨年より一週間遅れでジャガイモの植え付けをしました。18人もの参加で、作業30分、お茶飲み１時間の典型的なま～ゆ作業となり、暖かな春の日差しを浴び、うぐいすの声を聞きながら心癒されるひとときとなりました。今年も谷にま～ゆの仲間の元気な笑い声が響くことでしょう。

初めての麦踏み



初夏の大イベント　田植えのおしらせ

- ✻ 日　時　　5月28日（日）9時～12時
- ✻ 場　所　　ま～ゆ田んぼ（須川湖の手前右下、橇田たんぼ）
- ✻ 持ち物　　お弁当、おやつ、長靴、その他（天候によっては雨具）

4月のま～ゆ市

穏やかなお天気、すばらしい眺望、八十畳敷きの大広間、摘みたてのヨモギでつきたてのあんころ餅と持ち寄ったご馳走の数々。これで何拍子揃ったでしょう。

新入りの会員と中国からのお客さんも交えて、〝花よりなんとかのま～ゆ市〟はお腹も心持も満腹三昧の一日でした。

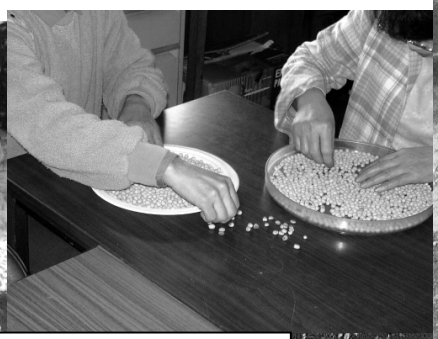
ことしのま～ゆ味噌

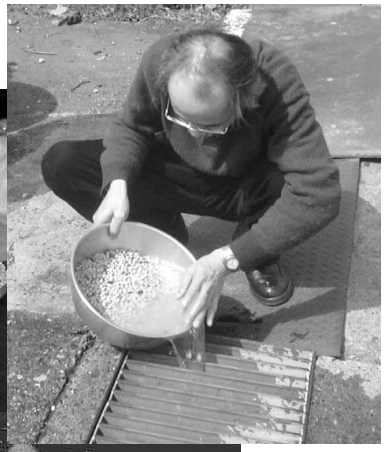
今年もみんなの力を結集して味噌プロジェクトが無事に終了しました。

自分たちが作った大豆と地元の米に天然の塩、全て安全な原材料で仕込んだ“ま～ゆ味噌”は ひときわおいしく仕上がることが期待されます。

今度からは、機器類も全てが“自前„とりわけ秋和のエジソンこと孫の手さんがアッチコッチから寄せ集めて組み立ててくれた 豆擂り機は快調に動いて大成功でした。「本当にま～ゆは人材の宝庫だなぁ」と感嘆しました

準備からの6日間に延べ73人が参加。里司さん・ワビさん・おじゃると子供たち・アンヂンさん・三井（政）さん・松井さんに、早苗さんと ごんべえさんのジュニアたちがボランティアで応援してくださいました。更に、同時入会の沓掛さんも。また、30日と2日の悪天候の中で奮闘された方々には「ありがとう」を何倍言ったらいいでしょう。お疲れさまでした。





豆の選別、豆洗い
煮豆をつぶし
糀・豆・塩を混ぜ合わせ
おしゃべりしながら
楽しくこねて
終わって茶話会
にぎやかに

ま～ゆ味噌は年々仕込む量が多くなり、自前の大豆ということから、これまで4年間のプロジェクトのやりかたに不都合な部分が生じてきたように思われ,新しいシステムが求められていると感じた私は、みんなが納得できるやりかたを作れないものか？」と考えました。

❖安全で、美味しくて、格安な味噌がほしい、❖みんなで力を合わせて(力量･技量を問わずに)楽しく作りたい、❖感情的な不満が生まれない公平性を、❖なるべくシンプルなシステムで、といった大方の意見を取り上げて練り上げたのが**【地域通貨ま～ゆを有効に使う味噌プロジェクト方式】**でした。大豆の栽培から味噌仕入れまでの労力提供に開きが大きく、味噌の注文量にも差があるので、“地域通貨･ま～ゆ„を使うことによって解決する方式です。

この味噌ま～ゆのシステムは

原料(大豆を除く)等のお金(円)で支払わなければならない費用と 参加者の労務費を明確に分けて、後者の方にま～ゆ(仮払い)を使うのがポイントです。

算出の明細はここでは省略しますが、参加した頻度に応じて獲得ま～ゆが味噌代金の支払時に反映されるというもので、一見複雑そうですが実際に精算したときには質問も(一切)トラブルも無く、初めての“実験„にしてはほぼ思惑通りに収まりました。

実例を紹介しましょう。仕込み総量は740㎏、単価を350円に設定しました。

☆A さんは、豆まき・草取り・脱穀等に参加し、仕込みの労賃とで3,000ま～ゆを獲得。これが3,060ま～めに変身。現金440円を足して支払い、注文した10㎏(3,500円)を持ち帰りました。

☆20㎏(7,000円) 注文した B さんの場合は、豆の選別と仕込みの労賃で1,000ま～ゆを獲得したので、変身した1,020ま～めと現金5,980円を支払いました。

このように、このプロジェクトだけで通用するま～ゆはま～めに変身することによってお金と同じ価値になるのが特徴です。ただし“良い加減„**のま～ゆらしさ**を損なわないように労務に軽重をつけない配慮もしてあります。

(参加されていない方も含めて) ご感想･ご提案があったら私にお伝えください。

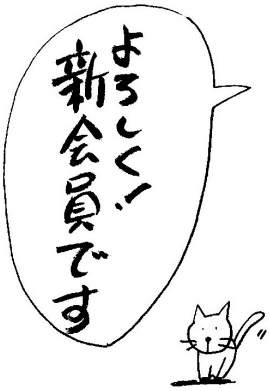
都々平こと前田光俊

「ことしの大豆は採れすぎる」予定

“手前味噌には自前の大豆„ことしも勿論これでいきます。
条件のいい畑を物色したところ、今年は平井寺地籍で500坪を借りられることになりました。

去年竹やぶを切り開いた畑では、鹿の食害に遭って、大打撃でしたが、今度はまずそれはなさそうな所です。土地柄も良く、大豆栽培にはうってつけとのお墨付き(誰の？)。面積が広いので作業量は増えることになるでしょうが、高収穫が期待できます。トラタヌではなさそうですよ。

もうひとつの“鹿畑„は、孫の手さんが「シカにやられてシカたねえ」なんて負けちゃぁいられねえ。とばかりに対策を検討中。ネットを用意したり、髪の毛(他人のです)を集め始めたり腕まくりをしています。結果は分かりませんがこの心意気に賛同される方はシカと心得てお力を貸してください。首尾よく行った場合にはこの畑の分はま～ゆを余分に出したいと考えています。



ニックネーム **“ふかちゃん„** 本名 **金井 深** です。

私が提供できるモノ・コトは

①旬の無農薬野菜の提供（月の半分は畑仕事をしています）

私の得意な野菜は（昨年よく出来たもの）アスパラ、ジャガイモ、サツマイモ、長芋、キウリ、ニガウリ、ミニトマト、落花生、大根各種、生姜、ナス、ピーマン、中辛南蛮、オクラ、玉葱、葱各種、韮などで旬の時期には処分に困りました。

②お店、工場、ホームページ等の簡易診断

月の半分を商工会連合会で嘱託指導員の仕事をしていますので、お店や工場またはホームページを見せていただければ、簡単な改善案 のレポートを提供いたします。

③7人乗りワゴンでの送迎など

自動車関係の会社勤めが長く、氷雪路でのテスト走行やレースのA級ライセンスを持ってミニレースの経験もありますので、安全運転をお約束しますし、タイヤ交換などもお手伝いできます。

④英語の通訳

2003年3月まで、6年間米国ジョージア州アトランタで米国の会社勤務をしていましたので、日常会話レベルの通訳のお手伝いをいたします。また、その間出張や旅行でヨーロッパ、南米、韓国などには何回か行っておりますので、この方面の旅行のノーハウをお話しできます。

⑤ソフトボール試合の主審

ソフトボールの公認審判員を約15年間やっていましたので、親善試合などの審判が必要でしたら声をかけて下さい。（現在は公認審判員資格は失効していますが）

⑥障子、襖、網戸の張替え

道具がそろっていて、経験豊富ですので高級調度でなければお任せ下さい。

⑦古い家のバリアフリー化診断

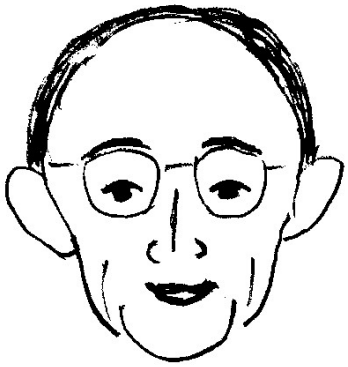
90歳の母が住む実家のリフォームの経験から、古い愛着のある家で住みつづけたいお年よりのため、少しでも安全に住みやすく出来るミニリフォームの診断と提案をいたします。

⑧熟年者向けパソコン指導

パソコンを始めたいが若い者に教わるのを躊躇している方々に、メール、インターネット、ワード、エクセル、パワーポイントなどまでなら解かり易くご指導させていただきます。

希望するモノ・コトは、今のところこれというものがありません。

今後いろいろ出てきたらお願いいしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



・私は上田市諏訪形で生まれ育ち、22 歳で神奈川県に就職し約 40 年間故郷を離れておりました。

・2003 年、６年間の米国ジョージア州アトランタ郊外での勤務の後帰国退職し、2003 年 12 月に旧丸子町生田に一家で引越し、現在は義兄から借りた畑での野菜づくりを本業とし、副業として長野県商工会連合会の小諸にある支所で嘱託指導員の仕事を城下一秀さんのもとでやっています。

・米国での生活や欧州、南米訪問などを通じて強く認識させられましたのは、日本の皆さんは世界でもトップクラスの経済的、物質的豊かさを獲得していること、反面精神的豊かさや満足感はとても低いレベルにあるということです。

・またそのためか、他人への気遣いや思いやり、社会生活のマナーなどが急速に失われつつあるのではと、とても寂しく心配です。

・まーゆの会に入れていただき、会員の皆様との交流を通じて真の幸せとは何かを追求していければとてもうれしいと考えております。

ま～ゆ　秋和菜園

4月15日2年目の秋和菜園がスタートしました。今年は14人が出来る範囲で畑を借りて、耕作することになりました。風の強い朝で、仕事が進むか心配されましたが、かじやさんの判断で菜園に集まり、堆肥と石灰、さらさを畑一面に散らす作業から始めました。

ドラムカンのまわりに穴を開けて石灰を入れたローラを転がし、一輪車で堆肥を運び、それを畑一面に広げる仕事は大変な作業です。かじやさんがキノコ栽培に使用した、いい堆肥を手に入れてくれましたので、味のいい野菜が期待されます。

有機肥料に無農薬の野菜作りは参加者みんなの願いです。害虫退治は竹炭を焼いて竹酢液をとり、それを使います。

ヒデさんが、区画を図面に描いて、準備してくれたので、今年はスムースに区割りができました。

皆さん、去年の経験をもとに、どんな野菜作りをするか楽しみです。

「とらぬたぬきの…」で会員の皆様にお裾分けがくるかもしれませんよ。

かじやさん、今年もよろしくご指導お願いします。

私からあなたへ

ま～ゆな進む道

No.9 西ちゃん こと 西 澤　修

蚕都くらぶ･ま～ゆも 丸 4 年がたち、いろいろな取り組み（プロジェクト）が増えてきましたが、150 名以上ともなると、まとまりがぼやけてきますし、今後の取り組みにも多少なりとも溝ができてきます。須川地区のみなさんとともに行う行事も増やすようにしていくこととか、関わり方にも変化も現れてきています。田、畑そして他の部分でも協力していくこと、又田んぼの作業にも、もっと多くの人の参加が必要です。ただ行事のみの参加では長続きしないと思います。米作りには、88 の作業があるといわれています。畑の作業については、土作り（ぼかし堆肥等）を入れて 3 年はかかるともいわれています。竹炭を畑に入れたり、もみがら（くん炭）を田んぼに入れたり…。

昨年の米がまずいという人もいます。おいしくするには、それなりの努力、工夫が必要であり、個人としての参加のしかたも変えていく必要があるのではないかと思います。味噌作り、豆作り、などいろいろな状況も変わってきています。物々交換だけではなくなってきていますし、個人だけでなく家族ぐるみで参加していくこともこれからの課題でありますし、地域通貨という観点からもう一度考え直して行く良い機会であると思います。若い人、壮年、老人とさまざまな人が生き生きと楽しく地域の人と共に伸びていくことがこれから求められています。

今、人生の中で今後をどう生き生きと生活していくか、人が人にどう対応して心が通じ合うかもこの会の目標であるし、それがなければ長く続かないと思います。背伸びをしなくても良いですし、無理はしない方が良いと思います。5 年目からの取り組みがひとつのことを深めるのも良いですし、いろいろなプロジェクトに関わることも良いと思います。

定例会（ま～ゆ市）への参加者を 2 割から 3 割…8 割･9 割と増やす取り組みも課題です。

ま～ゆな人

No.57　中澤 信敏 さん

今回は“ま～ゆ”のたちあげの時から参加している、中澤 信敏さんです。

市内国分に在住・・有限会社　伸和印刷・の代表であり、・・・1973 年生まれ、血液型A型、５歳、３歳、１歳の子供さんの父親でもあり若き実業家でもある。そのためなのかとても33歳には思えない。（失礼）かな？？？

そういえば以前わたしは、中澤さんに“ま～ゆ”でFAX/TEL を頂いたことがあり、その節はお世話になりました。本日は地域通貨には詳しくいわば。。。機関誌。。に関してはプロである。そんな中澤さんに私がお伺いしました。

早速、“ま～ゆ”の会報誌について聞いてみることに・・・。

Q，ま～ゆの会報誌はいつも読んでいる？

A，とってもいいと思う・・他種の最近の会報誌は、気持ちの入っていないものが多く、読んでみてもつまらない。その点“ま～ゆ”の会報誌は。。書きたい人が書いている。これが大切であって、同種業者からみると、こういう会報誌は本来の夢である、と思う。

なんとプロからお褒めの言葉を頂いた。。。

Q，ところで・・ま～ゆとの出会いは？

A，夏季大学があり、別所の森林公園で、地域通貨の分科会がありそれに参加、その時に　地域経済と違った、横のつながりを考えた価値観が見えた。。。現在のま～ゆ市は、小さい子供を連れて行かれる雰囲気ではないので。。　子供が大きくなったら一緒に参加できればいいと思う。

Q，１ヶ月の休暇をもらったら何をしたいか・・・

A，考えられない。

かつて過去に東京から。北日本。南日本を20 日ずつかけて、ユースホステルに宿泊して、バイクで１人旅をした経験者。当時あまり深く考えずに出発した。三陸のリアス式海岸が印象的、函館での食べ物、利尻、思い出が多い。南日本も、日本海から周り小笠原諸島まで、小笠原では往復の便が少ないので、暫く留まっていた。バイクが好きなので、故障すると適当に直したりもした。

現在“地域づくりネットワーク長野県協議会”“地域づくりネットワーク上小地区”の会長さんの役もこなしている。そんな中で、中澤さんが気にかけていることがある。。。。それは：地域の活性化：である。「上田に住んでいてよかった。」・・そんな地域にしたい・・そんな夢をもって前向きに発信している。～今の自分たちより前の世代の人々は、自分たちの地域の事を考えていた～　～地域の中に仲間が居た～。そんな地域を目指したい。そのためにイベント等を発信し、人々の気持ちが動いて、地域の活性化になれば、それは嬉しい。

そして今回、その試みのワンステップとして、★★ウェルカムパーティ★★を５月 27 日に開催します。これは上田地域で生活する学生がお客様。一般の方が主催者・・・学生と地域のみなさんとの交流会が開催される。ゲームあり、マジックショーあり、市内の店自慢の逸品あり、トークライブあり、でメニューは盛りだくさんです。皆さん奮ってご参加ください。前回ま～ゆのみなさんが沢山で、もりあげてくれました～～～。ま～ゆの通帳も何らかの形で使えるといいですね！！！

学生が、他の地域からきて上田で暮らす何年間かを《上田は良かった》《又来て見たい》《暮らしたい》そんな思い出がいっぱい詰まった地域にしたい。中澤さんは、熱くかたってくれました。

仕事の忙しい中、地域のためにも飛び回る中澤さんは、まさに若き経営者でありました。

だからなかなか、家庭サービスもままならないとか・・

最後に地域通貨の中身を理解していられる、中澤さんに、これからのま～ゆについて聞いてみたところ・・

今のままでいいのでは！！！　今のスタイルを変えると、今活動している仲間は居なくなってしまうのでは・・と・・・

ところでみなさ～ん・・これから将来自分で何かを出版したいとか、何かのパンフを作りたいとか、そんな時は是非是非“伸和印刷”さんをご利用くださいね。とってもわかり易い場所ですよ～～。

コボル 記

ニックネームの い・わ・れ

ま～ゆ会員にはユニークだったり、難解なニックネームをつけた人がたくさんいらっしゃいます。その「なーに？」を

今回は ま～ゆ使いの達人
No.71 丸山恵子さんを
ご紹介します。

トットチャンの名前の由来は、あの黒柳徹子さんをもしのぐかというほどのおしゃべりで、「口から先に生まれた」と周りから言われていたそうです。結婚してからパーソナル無線に夢中になり、子供が寝静まった後は、大勢の人たちと交信をして、おしゃべりに磨きをかけました。トットチャンのニックネームはこの時に始まったようです。

今はお勤めをしていますが、定年が間近になってきているので、「会社を辞めたらいっぱいま～ゆの行事に参加しよう」とその時を楽しみにしているようです。

では、本題のま～ゆの達人ぶりをご紹介しましょう。

石灯籠

トットチャンは、会員になった時に「石灯籠がほしい」とお願いを書きましたが、予想通り(?)1年、2年と音沙汰がありませんでした。

3年目、運命の人、No.151 のゴーンさんが入会し、「自分にできることは無いか」とお助け一覧表をはじから見ていったそうです。そして、トットチャンの“石灯籠”を見つけて、連絡を取りました。受けたトットチャンはびっくりするやらうれしいやら、すぐゴーンさんの家を尋ねました。思い描いたとおりの灯篭だったので本当に気に入りました。「それでは今からお届けしますよ」とその日のうちに運んでもらったトットチャンは大感激でした。

東御市の教室で一番初めに描いた油絵が、この石灯籠でした。

俳句

彼女は俳句をたしなみます。2005 年秋の作品展では俳句の先生より、「ただ 短冊に書くのではなく、自分らしい作品の発表を考えてみたら」と提案されました。この時トットチャンはすばらしいことを思いつきました。“JA のカレンダーの写真を使って、その中に俳句を入れる„ というものです。

これを都々平さんに頼んで、パソコンで作ってもらいました。画面に俳句を入れるのですが、字の大きさ、位置、色などいろいろと注文を付けて出来上がったのがこの写真です。展覧会では「一番目立ったよ」、「先生にもほめられた」と喜んでいるトットチャンです。

またこの俳句にある多羅葉(たらよう)は、のび太さんに一輪車のパンクを修理してもらったとき、彼の家にあった、赤い実を付けていた木を見て名前を聞くと、彼には分からず、あとで調べて教えてくれたということです。

水道

今年の冬は、ことのほか寒く1月のある日、家の水道が止まってしまいました。ワビさんにお願いしてみてもらうと、なんとメーターが凍っていたのです。まさかここまで凍みてしまうとは、さすがワビさんです。見つけて修理をしてもらいました。

畳

このインタビューの時に孫の手さんが来ていました。トットチャンは「畳3枚がほしいの、物置で使うのでいい物でなくても OK なんだけど。」早速 孫の手さん携帯電話で連絡を取り、この場で手配してしまいました。

このようなま～ゆ使いの名人トットチャン、すばらしいです。皆様も見習って、大いにま～ゆ交換をしましょう。

ミーすけ 記

栃木県の“空とぶモニョンゴロ村”に行ってきました。

№93 くまさんこと熊崎一也

この村の代表者は佐藤隆司さんという私と同じくらい(若い！)の年齢の方です。奥さんがいますが子どもはいません。

親父さんは近くに家を構えて住んでいます。若い頃、ＮＧＯの一員として何年間かアフリカで極貧のため学校に通えない子どもたちの支援活動をしていたそうです。

モニョンゴロとはアフリカの一地方の言葉で「ムカデ」のことだそうです。これをこのコミュニティの名前にしたのは、普通気持ち悪いとか毒があるから怖いとかでアフリカにおいてさえ嫌われるムカデでも、その母親は卵が孵化するまでメシも食わないで外敵から卵を守ることからその強烈な母性愛にいたく感動してのことだそうです。

また他の意味としてムカデ競争よろしく人と協調しなければ何事もうまくいかないことをも示唆しているのだとか・・・

そして「空とぶ」とは時代も価値観も宗教も思想も飛び越えて手を結び合うことを願って付けたのだそうです。

モニョンゴロ村はまさにそんな言葉がしっくりくる小さな里山コミュニティでした。

本業は介護支援のプロデューサーで所属する介護支援組織の傘下で自身の土地に借りた土地を加えてモニョンゴロ村を作り上げました。ですからここは知的障害者自立支援組織、ニートの若者の共同生活組織、登校拒否児などのグループホームでもあり、運営資金を稼ぐために林業機械を用いて薪づくりをしたり、近くの友人が作る無農薬の小麦を用いてパンを焼いて販売したりしています。

さらに粉石けんも作って売っているのですが、このモニョンゴロ村のある栃木県市貝町周辺はあの「花王」の企業城下町でほとんどの住民が花王の従業員であり、粉石けんの販売は迷惑がられているとか・・・。ですから粉石けんについては理解ある人が村まで直接買いに来る場合に限って販売しているのだそうです。

むずかしいですねぇ。

このモニョンゴロ村には国際的な人的交流ＮＧＯなどから数人ずつ入れ替わり立ち替わり外国人がステイしに来ており、国際色も実に豊かです。

最近、軽い脳梗塞で倒れたこともある佐藤さんは健康を何より大切にしており、生きているうちにできることをできる限りやって形を残し、多くの人に後を継いでもらいたいとかで、ゆくゆくはこの村から巣立ったスタッフが地域のあちらこちらでグループホームや共同作業所、託老所を展開してくれるのが夢であると言っていました。

ただ、このあたりでは障害者福祉に関する住民の偏見がまだ根強く、なかなかうまくいかないのだそうです。

それに加えて小泉構造改悪」による自立支援法の改悪により補助金が少なくなることに加えて、規制に合わせて収容者数を増やすよう行政指導を受けていることもあって資金のやりくりに困っているようでした。

強いお金よりも偉いお金！小さくても優しいお金。心意気のあるお金。
これはオーストラリア人のアメリアさんがホオの木に焼きごてで作ってくれた優しい「モニョン硬貨」

ここには最近上田からフリースクールの関係の団体の人たち（えーと、侍ナンとかというＮＰＯだったかな？）が視察研修に何日間か来たそうです。

上田市でも真田地域では社会福祉が充実していることを話すと、一度行ってみたいと言っていました。

モニョンゴロ村内だけで通用するモニョン貨幣はまさに地域通貨の原点で、ま～ゆに通ずるものが大でした。町の一部のお店ではこのモニョンが使えるところがあるとかで、最近村のスタッフ全員で町のそうしたお店でピザを食いまくってモニョンを使い果たし財政危機に陥っているとか・・・

自然エネルギーを何とか有効に活かしたいと常に考えておられるようで、まさに薪の販売も五右衛門風呂もその一環。近くに大きな堆肥工場ができたはいいが、その畜糞や残飯の山から相当な熱が発生しているのにそれを利用しない手はないとか、以前薪の配達で長野に行ったときあんなに川がたくさんあるのにミニ水力発電をしていないのは残念だとか（最近では少しづつそんな動きも出てきていることを説明しておきましたが・・）

とにかく人と自然の共生を大事にしている人でした。

いつか地域間交流の機会が持てるといいですねということでモニョンゴロ村をあとにしましたが、いやぁ、パンが美味かったなぁ。

ま～ゆにはいろいろ視察や取材がありましたが、これからはこちらからお出かけして交流するようなことがあってもいいですねぇ。視点が広がりますしね。このモニョンゴロ村に限ったことではありませんが・・・

第１回ま～ゆ寺子屋は会場に入りきれないほど多くの方にご参加いただきました。結果、大変狭苦しい思いをさせてしまいましたことをお詫びいたします。

しかし、アンジン先生の講義（主に平成の大合併の内容・上田市の財政状況・新上田市の地域自治区構想など）を受けて後半に始まったフリートークは会場の狭さも手伝って？熱気はすごかった。

始まってすぐに、こりゃ時間がいくらあっても足りない、どでかいテーマであったことと、担当として自分の能力不足を認識したしだい。

現状のもどかしさや、こうなって欲しいという希望など、皆さんそれぞれが地域によせる熱い想いからの発言が続きました。

集まった皆さんだけでなく、もっと多くの市民の皆さんと共に考えて行きたいテーマがたくさん沢山投げかけられた講座であったと思います。

アンジン先生の作られた資料の中にも記されていましたが、今後のま～ゆ寺子屋の継続した学習テーマとして取り上げていきたいと思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中資料つくりから講師までしていただきましたアンジンさんと、一番最初に来た方、と決めていた受付を快く引き受けてくれました丸山さんに御礼申し上げます。

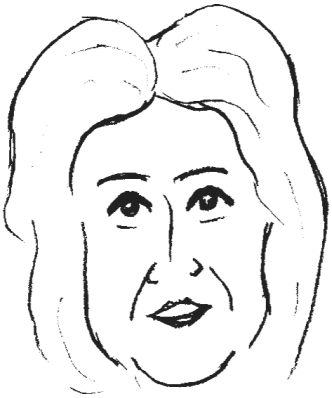
ま～ゆ寺子屋担当 のび太

世界大動物園について

ま～ゆMLやりとりとその後のご報告

by にゃんこ先生

生きものの
いのちをとらば
生きものはかなしかるらん
生きものをかなしがらすな
生きもののいのちをとるな



これは、私が大好きな、室生犀星の『動物詩集』の序詩です。「自分がして欲しくないことは他者にもしない」が、私の銘とするところです。相手が人間だろうが動物だろうが同じこと、だから、六年前から痛みを感じる生き物を食べるのをやめました。

去る三月二六日、以下のようなメールをま～ゆMLに流しました。

「今朝の朝刊にチラシが入っていましたが、四年前にも来た東北サファリパークの移動動物園が再び、四月八日～五月一四日の間、川東農産物総合出荷場横にやって来ます。

四年前、北極クマやジャガーやピューマは、狭い檻の中を行ったり来たりの常同行動を示していました。更に悪趣味なことに、アルビノ（先天的色素欠乏症）の個体を取り揃え、「幸運の白い〇〇」と見世物にしていました。こういうものを見て子供たちは、チラシの宣伝文句にある通り、「愛情あふれる心の持ち主に」育つのでしょうか。

この催しは、前回同様、上田市と上田市教育委員会と上田社会福祉協議会が後援しています。早速市長宛て抗議のメールを送りました。

自然な状態で暮らしている世界中の野生動物をテレビやインターネットで見られる現在、動物園はもはや過去の遺物ではないでしょうか。緊急避難用とか、野生に戻せない動物のシェルターとしての役割だけ果たしてもらって、終息させていくべきだと思います。しかも移動動物園…、環境エンリッチメントなんて望むべくもありませんが、せめて日差しをよけられる場所や身を隠せる休息場所を設けるよう指導を要請しました。

この動物園が数年後にまたやって来るのを防ぐためにも、同じ考えの方は市長にクレームして頂きたく思います。」

これをMLに流すにあたっては、どう受け取られるか不安で迷いました。でも、何も言えない動物の替わりに、上田市民に声を挙げて欲しかったので、思い切りました。

嬉しいことに、反響が三つありました。

ハコさんからは、「「命」や「生きる」ことを今しっかり考え、人間が「傲慢」であってはならないことを共通認識としてそれぞれが自覚すべき」。

四年前に孫を連れて行かれたという三井さんからは、「本当に可哀相な状態で、二度と見たくないと思いました」。

そして、のび太さんの「一〇人集まって一回抗議するより、一人一人が合計一〇回のほうがいい」は力づけられる言葉でした。

四月五日、市の秘書広報係から回答のメールが来ました。要約すると、

「世界大動物園の名義後援は、移動動物園の開催が子どもたちの情操教育を高揚させる貴重な機会であり、また川東農産物総合集出荷場横の遊休地の利用促進に繋がるため、承認した。

動物福祉の観点から、動物の“行動や生態”を尊重し、”心“を豊かにする環境エンリッチメントについては、名義後援申請書の提出時に「移動動物園　安全対策要領」の規定を忠実に遵守するよう、動物園関係者に周知徹底を図った。その整備状況については、開催前日に、担当者に前述の規定と適合しているか再点検を指導したい。また、排泄物など衛生面で周辺住民に与える影響など予想されるので、施設の衛生保持方法や動物の飼育方法についても再度周知徹底したい。その他の諸問題についても、市民の皆様に不快な思いをさせぬよう、市関係課と移動動物園の関係者と連携をとり、対応したい。」

（傍線筆者。）

私は、「弱者への思いやりとは程遠いこのような移動動物園を、教育や社会福祉に関わる組織が後援することの正当性について」意見を訊いたのですが、それについての返答にはなっていませんでした。

四月一四日（金）、こんな所にお金を落とすのは嫌で嫌でたまりませんでしたが、現状を見なければと思って行きました。

午後一時半、観客は私ひとり。サーバルキャットとジャガーが常同行動をしていました。体長一m五〇cm以上ありそうなジャガーの檻は、長辺が二m二〇cmくらいです。

草食動物の檻の中には、それぞれの移動用木箱が扉を開けて置かれていました。

休息用？　あるいは雨除けでしょうか。気をつけの姿勢で入ってなければならないような小さな箱です。こんな箱で移動させるんだよということが一目瞭然。これを見て残酷さに気付いてくれる人も多いかも、と思いました。

また、檻の天井にはおよそ一・五m四方の波型の塩ビ波板を張った部分がありました。日除けのつもりかもしれませんが、半透明では効果ないでしょう。（この日は曇っていました。）

高校教科書検定

お金本来の役割問う

現代社会 政治・経済「エンデの遺言」登場

ライブドア事件をきっかけに市場でのマネーゲームの是非について論議が盛んになる中、現代社会と政治・経済の教科書に、お金本来の意味や役割を問い掛ける「エンデの遺言」が登場する。

作家の故ミヒャエル・エンデは晩年、お金の役割について「パン屋でパンを買うときのお金と、株式取引所で扱われる資本としてのお金は種類が全く異なる」と指摘。「利が利を生むことを至上とする通貨」に警鐘を鳴らした。

エンデが着目したのは、利子を前提とせず、ボランティア活動のように市場では成り立ちにくい価値と交換可能な地域通貨。一九九九年に「エンデの遺言」として放映されたテレビ番組は、大きな反響を呼んだ。

教科書は「便利な道具として人間が生み出したお金は、本来の役割を変えて世界の金融市場で取引されている」と記述。「お年寄りの話し相手をします」「買い物の代行をします」といったサービスを媒介する地域通貨として、滋賀県草津市で試行された「おうみ札」を紹介した。

教科書会社は「これまで通貨そのものの意味を考える題材があまりなかった。高校生が生活の足元を見つめるきっかけになれば」と話している。

信濃毎日新聞に掲載

2006年（平成18年）

3月30日（木曜日）

編集を終って

“風薫る„の言葉がようやく肌に感じられ、躍動の**ま～ゆ**が あちこちで目立ってきました。
味噌作りや須川・秋和・平井寺の農作業に、寺子屋・記念誌プロジェクトで元気・やる気・和気に熱気むんむん。
取材に来た信濃毎日新聞の記者は目を丸くしていました。

5月中旬の信毎紙“民が立つ:あれから„には県下10の住民グループに**ま～ゆ**が選ばれて登場します。

また、記念誌(仮称)プロジェクトは「これまでの活動を振り返るとともに これからの**ま～ゆ**や地域通貨の有り様を考えるきっかけにできれば」と、出版に向けて動き出しました。“本„ には、できるだけ大勢の方に登場していただき、生き生きしたま～ゆのみなさんの姿がイメージでき、また「ま～ゆ以外の方にも理解と共感を得るものにしたい」と、スタッフ一同は知恵を出し合って取り組んでいます。

上の新聞記事にあるように、教科書にも地域通貨が取り上げられる“時代„になって、わたしたちの活動が「先端を走っている」と自信を深める思いです。でも、まだこの地域でのま～ゆの知名度はけして高いとはいえないでしょう。目立つことが少々「しょうしく」とも、社会がより良く変わっていくためだったら、ためらわずに進んで行こうじゃありませんか。

都々平

街の気軽なマルチメディアショップ
㈲ **伸和印刷** No.57 中澤
●ご利用金額の10%まで「ま～ゆ」をお使いください
●今、流行りの自分史を作ってみませんか?
●会議資料作りに便利な、製本機能付き
高速デジタルコピー機導入しました
上田市国分1-7-12
TEL22-7710 Fax22-7718

都市・建築工房 No.130ヒデさん(竹内秀夫)
●一級建築士事務所
●地元産木材を使ったローコスト環境住宅の設計料の5%まで「ま～ゆ」が使えます。
上田市御所274
TEL0268-28-7532
http://www6.ueda.ne.jp/~toshiken/

6月は

いつものま～ゆ市

6月１０日(土) 7時から

中央公民館

誰でも世話人です
気軽に和の中に
入りましょう

今年はやります！

「アタマと舌と足腰を鍛える！」

ま～ゆ3トク自然教室

☆期日　:5月21日(日) 午前8時45分集合

☆集合場所 :菅平高原「鼓滝の森林」

(国道466号唐沢の滝手前(町営トイレのあるところ)

☆会費: 300 ま～ゆ　保険料として1名100円ほど

☆持ち物:・山の中を歩くのに不自由しない服装・帽子

・不意の降雨に備えてカッパなど・救急医薬品

・軍手(丈夫なゴム引き)　・しっかりした靴(長靴や山靴)

・ナタ、小さめのカマ・収穫物を入れる袋

・たばこを吸う人は携帯灰皿

☆昼食　:おにぎり程度 飲み物など、嗜好品を少々。

※収穫物は山菜天ぷらにて直ちに賞味

☆.少しは勉強したいと思いますので、

資料はクマさんが用意します。

☆.雨天の場合、里山講座(会場は真田地域福祉センター)

※朝6時頃の状況で、のび太さんか都々平さんに連絡します

7月ま～ゆ市

7月10日(月) よる7時～ 場所:**縁舎**

ま～ゆに寄せる思いの丈を
いっぱい語る夕べです

7月１５日（土）　吉崎酒店で

詳細はま～ゆ通信(６月号)をご覧ください

吉 崎 酒 店　No.126吉崎

●輸入元より直接仕入の厳選されたワイン
●和・洋酒各種・又健康に良いものいろいろ
●全商品5%まで「ま～ゆ」をお使い下さい

上田市中央3-7-7
TEL22-0300 Fax22-4525

甲田はきもの店　No.39 甲田

●ご利用金額の10%まで「ま～ゆ」をお使い下さい
●靴、草履、下駄などの修理は20%まで使えます

上田市中央4-6-24
TEL22-1272

代 表　安 井 啓 子

ま～ゆ 連絡先　前 田 光 俊
〒386-0041 上田市 秋和 503-6
TEL 27-1230

ホームページ　(検索エンジンで地域通貨 ま～ゆ を開いてください)